



令和8年4月1日

令和7年産米の作柄概況について

1) 作柄

4月から7月にかけてかなりの高温（平年+約2.3℃）、少雨（平年比約87%）、多照（平年比約120%）で推移しました。特に気温に関しては、記録的高温年だった令和5年並みで推移しました。東北部の梅雨入りは6月23日頃、梅雨明けは7月18日頃となりました。8月はかなりの高温となり（平年+約2.5℃）、降水量は少なくなりました（平年比約78%）。9月もかなりの高温となり（平年+約2.6℃）、上旬から中旬にかけて降雨がありました。10月は平年並み～やや高温で推移し（平年+約0.6℃）、降水量は平年並み（平年比約102%）、日照時間は少なくなりました（平年比約84%）。

田植え盛期は5月13日で平年より1日遅く、出穂盛期は7月28日と平年より2日早まりました。出穂が早かったことや登熟期間が高温で推移したことから成熟が早まり、刈取開始時期が早くなりましたが、その後の刈取進捗は鈍化し、刈取終期は平年並みの10月15日となりました。

令和7年度も高温傾向で推移し、玄米品質に影響を与える出穂後20日間の平均気温は、7月20日頃に出穂した場合は27℃を超えましたが、管内の出穂時期は概ね7月22日～8月4日の期間となっていたため、出穂が極端に早い一部の圃場や高温に弱い品種を除き、高温による玄米品質への影響は少なかったと推測されます。

仙南地域では、大型のクモヘリカメムシの発生が県内他地域と比べて非常に多く、斑点米被害粒率の増加に繋がりました。斑点米カメムシに対する防除対策としては、穂揃期とその7～10日後の2回の薬剤散布が有効ですが、防除回数が1回の場合や防除タイミングを逸した場合は、防除効果が不十分になったと考えられます。

※令和7年度仙南稲作情報（総括号）より抜粋

令和7年産水稻の作柄表示地帯別
10a当り収量及び作況単収指数

宮城県南部

491kg【99】

宮城県

525kg【99】

（東北農政局 令和7年12月12日公表）

<凡例>

10a当り収量kg（ふるい目1.9mm）

【作況単収指数】

2) 7年産米集荷状況及び品質

令和7年12月末現在

地区名	集荷数量 (袋)	集荷率 (%)	1等米比率 (%)
柴田	44,272	80.6	84.78
大河原	16,496	96.64	79.58
村田	20,280	70.45	80.5
川崎	37,813	86.73	91.02
蔵王	32,017	85.56	79.53
白石	39,945	79.17	74.17
七ヶ宿	6,355	105.32	96.22
角田	120,832	79.18	85.56
丸森	44,507	92.95	78.94
みやぎ仙南	362,517	82.62	83.07

仙南地域における2等以下の主な格付理由

- ①部分着色（カメムシ）（56.41%）
- ②充実度（16.88%）
- ③腹白粒（10.87%）

<裏面もあります>

育苗管理について

～高温障害に気をつけ、ハウス内の温度・水管理を適正に行いましょう～

温度管理

時期	日中の目標	夜間の目標
緑化期	20～25℃	10℃以上 低温時(外気温が5℃以下)は、早めにハウスを閉め保温資材をかけましょう。
硬化期	15～25℃	

- ◎軟弱徒長苗を防止するため、硬化期は25℃以下の温度で管理するよう努めましょう。
- ◎温度管理を適正に行うことで、苗の徒長や不揃い等を防ぎ、カビ等の発生も併せて抑制することができます。
- ◎新しいビニールに張替した場合は温度が上がりやすくなるので、注意しましょう。



温度計の設置は目の高さではなく、苗の高さに設置しましょう！！

水管理

- ◎1回目のかん水は緑化が終了してから行いましょう。
- ◎覆土や葉が乾いたら、午前中にたっぷりとかん水しましょう。



1日に何回もかん水を行うと、軟弱苗、徒長苗や根張りが悪くなります。過湿になると、カビや細菌の発生にもつながりますので、かん水は午前中に1回のみ行いましょう。

※プール育苗法については『おいしい米づくり・地域づくりカレンダー』を参照してください。

育苗時の殺菌

おすすめの使用方法

適用病害名/使用目的	薬剤名	希釈倍率	使用液量(育苗箱1箱当り)
苗立枯病・ムレ苗防止 根張促進・活着促進	ナエファインフロアブル	1,000倍	500ml



水100ℓ + 薬剤100ml = 1,000倍液(苗箱200枚分)

1,000倍液を苗箱に500ml/1箱かん注します。

◎は種時の使用か、出芽直後の使用をおすすめします。

異品種混入防止対策

異品種が混入した場合、大きな損害(産地の信用喪失、損害賠償等)を被ることになります。作業を行うにあたり、繰り返し点検・確認することで確実な防止対策ができます。

対策



- ★購入した種子袋は保管しておきましょう。
- ★種子ネットは品種ごとに色を変え、品種名の札を付けて作業員全員が判るようにしましょう。
- ★品種切替え時には機械清掃をしましょう。
- ★ハウスにも品種札を設置しましょう。
- ★苗の運搬時は複数人で、事前に品種を確認しましょう。